

2010.04.25

発行責任者 井口 雅文

発行 S & I International Bangkok Office

TEL +66-2-261-6449、6466

FAX +66-2-261-6419、6379

Address : 253 Asoke 23<sup>rd</sup> Floor, Sukhumvit Soi 21 (Soi Asoke)

Bangkok 10110, Thailand [地図](#)

E-Mail : [iguchi@loxinfo.co.th](mailto:iguchi@loxinfo.co.th)

S&IWebsite: <http://www.s-i-asia.com>

(取材編集協力) 有限会社 S & I J A P A N

〒150-0001 渋谷区神宮前4-16-8 大場ビル2階

TEL:03-3402-0013、FAX:03-3402-0014 [地図](#)

[siasia-japan@kym.biglobe.ne.jp](mailto:siasia-japan@kym.biglobe.ne.jp) (担当：矢守章子・井口文絵)

<http://www.s-i-asia.com/s-i-japan/s-i-japan.htm>

CopyRight © S&I International Bangkok Office Co., Ltd.

社内用・社外用を問わず無断複製(電子的複製を含む)を禁ずる

～事務所より～

(ホームページ更新のお知らせ)

編集者の出張のため、発行が遅れましたことをお詫び致します。

弊社ホームページを4月25日付けで更新しました。

(再送：PCT加盟の準備状況及びQ&A)

タイ政府は2009年9月24日にWIPOに対しPCT加盟申請の寄託書を提出しました。これにより同年12月24日にPCT加盟が発効することとなりました。また、タイのPCT出願取り扱いについてのQ&Aを弊所ホームページにアップしました。また、**PCT加盟に伴う規則改正案**が公告されましたので、その**英文和文を会員ページにアップ**しております。[http://www.s-i-asia.com/web\\_japan/intellectual\\_thailand\\_jp.php#18](http://www.s-i-asia.com/web_japan/intellectual_thailand_jp.php#18)

(再送：ベトナム特許出願の権利化促進対応策について)

弊所のベトナム出願を取り扱っている複数の提携事務所から次の要望がでています。現在ベトナム審査官は少人数でかつ過大な業務を行っており、滞貨が増加しております。

ベトナムでは法制度上、他国出願結果を提出する義務規定はありませんが、出願人が権利化を促進したい場合、他国出願結果を提出することが望ましいとのことです。もし、他国出願結果が無い場合、審査期間の長期化は避けられないとのことです。①他国の出願とは出来る限り欧州出願、米国出願、日本出願などの先進国の出願のことです。②複数の他国出願がある場合、出願人が選択して一カ国の出願結果を通知できる。③翻訳は、クレーム

の部分のみをベトナム語へ翻訳するのが良いが、翻訳部分については審査官の判断に依る。もし、ご質問などありましたら、弊所までお知らせください。

（現在のタイの治安情勢と弊所業務）

多くのマスコミから報道されているように、バンコク中心部（セントラルワールド界限）で親タクシン派（UDD）の集団が、バリケードを築き占拠しております。この地域一帯と弊所は、かなり離れておりますので、弊所業務は通常とおり行われており、郵便物、クーリエ便、ファックス、メールなどは全く支障がありません。各所より多くの問い合わせが弊所に来ておりますが、全く通常業務ですので、ご安心ください。

（タイ知的財産振興協会（IPPAT、旧名は知的財産同窓会）に民間専門家が加わる）

4月28日にタイ知的財産振興協会総会において、三井化学（株）より社会貢献活動の一環として石井さんが化学分野のサーチ専門家として、長期間の常駐活動することが決まりました。

今後、大学の研究環境における知的財産情報の活用や、タイ現地中小企業向けの活動などのプロジェクトをジェトロ、タイ政府、タイ工業連盟などの他機関と協力しながら遂行する予定です。民間からの団体への派遣専門家は、2003年～04年の豊崎弁理士以来、2人目となります。

（知的財産研究所「知財フォーラム」No.80に寄稿しました）

東南アジアの知財の底流と題し、寄稿しましたので、添付致しますので、ご高覧ください。

～編集者より～

4月13日から15日までソンクラン（タイ正月）となり、一週間ほどお休みを戴いた。バンコク市内では、反政府集団の占拠地域を除き、帰郷した人が多いためか閑散とした通りの中で、恒例の水掛け騒ぎをやっていた。長閑なものである。

各所に警察官が張り付いているものの、水を掛け合いながらの大騒ぎである。早速、路上で水鉄砲（一時期強力な水鉄砲が販売され、危害の恐れがあったため、数年前に禁止された。最近では少し当たりが弱い水鉄砲となっているが、それでもマシンガンのような型式である）を100パーツで購入し、運転する車の中から車窓のガラスの隙間から銃口を外に向けて、応戦していた。やはりバイク乗りの連中は巧みで、お陰様で、バケツの水を掛けられて車内が水浸しとなってしまった。

ソンクランが終了し、反政府活動が過激になるにつれ、市民生活に及ぼす影響も徐々に始めている。高架鉄道の運転休止や運転時間の制限による所員の通勤に支障が出てきた。さらに、占拠地域の側に居住している所員は、自宅近辺が反政府集団の共同トイレとなったため、悪臭と騒音で、親戚宅へ避難している。占拠地近くにあるジェトロが入っているビルも閉鎖となり、ジェトロ職員は裏口からの出入りを余儀なくされている。もちろんホテル（占拠地側には、第一級のホテルが多い）などは閉鎖となっている。タイのいつもの政情とはいえ、そろそろ庶民の忍耐も限界に来ているのではあるまいか。

今年に入って、本稿でも書いてみたが、「今の日本企業は、アジアで生かされている」「日本市場は、アジアの地方市場の一つに過ぎない」という現実が、ほとんどの日本からの出張者より聞かされるようになってきた。その聞かされる言葉の中で、「日本を捨ててアジアに出る。」とか、「拠点は中国に設ける。日本ではない。」というフレーズが私の頭の中で、引っ掛かっている。所詮、そのような企業経営方針は、自由だし、勝手に決めてくれれば良いのだが、どうも私の感覚の中では、異常に聞こえる。

つい10年前、「グローバルスタンダード」なる語が流行った時代があった。全てが、この言葉で片付けられて、何も反論しないような社内や政府部内の空気を経験した。私は、その時に、「スタンダードは一つであるワケがない。当然、複数のスタンダードを追っかけるべきだ」と主張していたが、賛同をしてくれたのは極僅かな知人であった。今ここに来て、再び二者択一であるかのような選択を企業経営はやっているのだろうか。少々心配になってきた。欧米のスタンダード、日本のスタンダード、アジア各国のスタンダード、全てが複合化し、融合することなく、共存する経営戦略こそ今後期待されるものではなからうか。何故か日本人は、「一つ」を追っかけるのが大好きな民族なのである。

先週、爆弾騒ぎで余りにもバンコクが騒々しいので、避難するつもりで週末を利用して中国広州へ遊びに行ってきた。香港からの一日ツアーが普通の企画なのだが、今回は広州のみの3日間かけての小旅行となった。広州は人口約1千万人、広東省で約1億人いる。中華民国を樹立した孫文の故郷（中山市：広州市の隣）でもあり、活動拠点でもあった。孫文が1924年に神戸で演説した有名な「大アジア主義」というのがある。歴史では、この大アジア主義が大東亜共栄圏思想にも影響を与えたと教えているが、この演説の中での一節（この一節が実際に神戸高等女学校で話されたどうかには異論があるらしいが）が、どうも今の日本の状況に当てはまるような気がしてならない。

「貴方がた、日本民族は既に一面欧米の覇道の文化を取入れると共に、他面アジアの王道文化の本質をも持って居るのであります。今後日本が世界文化の前途に対し、西洋覇道の鷹犬となるか、或は東洋王道の干城となるか、それは日本国民の詳密な考慮と慎重な採択にかかるものであります。」

どのようにこの言葉を受け取るのかは、読者諸氏にお任せしたい。

～タイパタヤで靴と靴下のコピー商品を販売していた女を逮捕～

2010年3月25日、タイのパタヤでアディダス、ナイキ、ラコステ、プーマ及びディーゼルなどの商標を偽造した靴及び靴下を販売していた女（33歳）が逮捕され、強制捜査チームにより10万バート相当の侵害品が押収された。この捜査は侵害品に対する訴えが度々あったことから、パタヤの観光地としてのイメージを高めるために行われた。

（2010年3月25日、タイASTV プージャッガンオンライン）

～タイ事業競争法違反で AP Honda が起訴される可能性～

昨日の事業競争委員会の決定に続き検察が事件を進めることを決定すれば、AP Honda は事業競争法違反で起訴される可能性がある。この事件は、同社がバイクのディーラーに対し他社のバイクの販売を妨害するという方針に関するもので、Yanyong Phuangrach 商務事務次官は Porntiva Nakasai 商務大臣率いる事業競争委員会の会議が終了した後、この事件はまもなく検察に送られることになると話した。同氏はこれは政府が事業競争法違反で民間企業に対し訴訟を申立てた初めての事件となると話している。このことは、不正競争に携わっている企業に対する法執行の大きな前進を示していると同氏は言う。事業競争法の第 25 条は、市場独占に焦点を当てており、侵害者は 3 年以下の懲役及び/又は 600 万バーツ以下の罰金が科される。しかしながら、捜査を指揮する Mana Pochuay 警察中佐は、検索が、事業競争委員会の決定に続いて行動を起こすかどうかについては未だ不透明なままであると話している。もし検察がより多くの証拠が必要だと思えば、委員会は更なる調査を開始する必要があると出ると同氏は話している。事業競争委員会は元々 2003 年にこの事件を検察に告訴していたが、更なる捜査を要求していた。昨日の決定は、2,000 ページに及ぶ書類を伴う 12 回の会議と 23 人の証人の取調べの後に得られたものである。この事件は 2001 年に Kawasaki Motor Enterprises、Thai Suzuki Motor 及び Thai Yamaha Motor が、タイ最大のバイク販売者である AP Honda が代理店に対し Honda のバイクだけを販売するよう強要し他ブランドのバイクの販売中止を促していたと AP Honda を訴えたことから始まったものである。一方、委員会は次回の会議で他の 3 つの事件を更に深く捜査する特別委員会を設置する予定である。この 3 件とは、Thai Beverage のダンピングと不正プール、印刷会社の市場独占及び最近の販路における米の価格ダンピングである。

(2010 年 4 月 1 日、タイネーション)

～タイは米国における貿易地位はアップグレードしない見込み～

3 月末に発表された米国通商代表部の外国貿易障壁報告書において、不透明な慣行、高い関税、知的財産の不十分な保護及び複雑な認証プロセスなど貿易の障害と見なされるタイの様々な貿易慣行が挙げられ、貿易地位のアップグレードは見込まれないことが示唆された。タイは 2007 年に優先監視国に指定され米国から高い関税を課されることになったため、タイ政府は今年監視国にアップグレードするよう米国の説得を試みていた。米国は今月末までにスペシャル 301 レポートを発表する予定である。

(2010 年 4 月 5 日、タイネーション)

～タイのクリエイティブタイランド・エコノミー事業の予算が来年度縮小～

タイ政府は最近来年度のクリエイティブタイランド：クリエイティブエコノミー事業に対して 9,000 万バーツの予算を承認した。これは今年度の割り当て 10 億バーツに比べると格段に少ない。商務省の情報筋によれば、予算が削減されたのは政府がこの事業に十分な経済的支援を受けられなかったからだと話している。

(2010 年 4 月 7 日、タイネーション)

～キアとヒュンダイ:模倣者ではなくなる～

キアとヒュンダイは不景気な市場における大きな販売利益を報告した。同時に今月ニューヨークモーターショーにて紹介されたニューモデルから分かるように、韓国の自動車メーカーは彼ら自身を強調した特徴あるスタイルに磨きをかけてきた。そして、日本、アメリカ、及びドイツのブランドに対してさえ視覚的にも魅力あるライバルとなっている。モーターショーにて紹介されたオプティマは“明らかにモーターショウのスター”だったと Eric Galina 氏は彼の編集するロンドンを基盤とする専門ジャーナルのカー・デザイン・ニュースのウェブサイトには書き込みをした。ニューヨークで初公開されたオプティマと他の新しくデザイン変更したキア “the 2011 sportage crossover” は小型の “Forte sedan”、“the sporty Forte Koup” 及び “the jaunty Soul” モデルにて街頭ですでに散見されている。キアは 2006 年、アウディスのデザイナー部長だったドイツ人の Schreyer 氏を雇った時にそのデザインを思いつき始めた。Schreyer 氏が最初にとった行動の一つは今までと違う異なったキアの外観を確立することであった。ヒュンダイのデザインはハイブリッドとターボモデル “2.0T” の 2 種の中型 “Sonata” 及び最高級の “Equus” によってニューヨークモーターショーにて発表された。ヒュンダイのデザイン部長である Suk Geun Oh 氏はヒュンダイのデザインは単純ではないが、刺激的で活動的になるであろうと約束した。ヒュンダイの未来のデザインは先月ジュネーブでのモーターショーにて公開されたコンセプト車 “i-flow” を基に更に表現されている。「ヒュンダイは我社より自分の能力を発揮しすべてがうまく進んでおり、感情を表現している」とギアの Kearns 氏は語った。

(2010 年 4 月 11 日、シンガポールストレイトタイムズ)

～Global Yellow Pages 著作権紛争に関し裁判所に提訴する～

Yellow Pages の商工名鑑の出版に携わった出版社 Global Yellow Pages (GYP) は著作権論争についてその競合会社 “Promedia Directories” を高等裁判所へ提訴した。論争の中心は公共情報である商社及び企業の出版された名前、住所、電話及びファックス番号に関して企業は知的財産権を有するべきかという問題である。GYP は裁判所にてオンライン電話帳と同様に印刷された Green Book の出版に携わった Promedia は、印刷された電話帳からも Promedia が出版物の中の何千もの電話番号リスト及び住所を複写して著作権を侵害したと述べた。以前に Yellow Pages (Singapore) として知られた GYP は加入者情報の毎日の更新をする権利を与える telcos Sing Tel 及び StarHub と独占的権利契約を結んでいるということを高等裁判所に述べた。GYP はまた、著作権によって保護されている文芸作品としてみなされる住所氏名簿の年鑑を所有している。被告側答弁において、Promedia は 29 年間以上の我が社自身の成果から情報を得たと述べた。Ragakrishnan 弁護士は GYP の telcos との独占的権利の取り決めは競業法の下禁じられており、GYP の行為は Promedia のような他社に対し加入者情報を与えないことにより、電話帳出版事業内の競争を妨げると異議を唱えた。しかし、高等裁判所の Jeyendran Jeyapal 記録補佐官は法廷は不当営業行為の苦情を聞く場ではないとして GYP の Adelin Lee 弁護士の主張を認めた。

(2010 年 4 月 13 日 シンガポールストレイトタイムズ)

～外国と中国の技術革新者にとってのグッドニュース・電気ポットの勝利！～

最近英国メーカーの知的財産権を行使する判決を下した。中国における外国企業の知的財産権の行使は深刻化しているが、それはまた、それらの新しいアイデアは守られていくということを知る必要がある中国のビジネス界にとって良い知らせである。北京の裁判所は中国の企業2社に対し小型国内電化製品用安全制御システムに関する世界的なメーカーの1つである Strix Ltd に対し 910

万元（1.2 億円）の損害賠償金の支払いを命じた。2 社は、世界の電気ポットの 3 分の 2 の自動温度調節制御に使用する Strix Ltd の特許技術を入れ込んだ電気制御装置を生産し、販売していた。裁判長は“論争に関与した当事者は彼らがどこの国籍であれ公正に扱われる”という平等の扱いに関する基本方針を強調した。

（2010 年 4 月 19 日 タイネーション）

～タイ知的財産局が ASEAN・中国の知的財産に関する協力関係についての会合に代表団を派遣～

知的財産局は、4 人の代表団を結成し、2010 年 4 月 12-17 日の間、中華人民共和国へ派遣した。その氏名は以下の通り。1. カジット・スクム国際知的財産専門官 2. ワッチャラ・ピアケーオ商標部商務特別専門官 3. スワッチャイ・ブンアーリー特許部商務特別専門官 4. カチャーボン・ティアンタラクーン知的財産開発促進部専門官。当局とアジアの代表は、Mt.Tian Lipu ,Commissioner of SIPO と Mr.Francis Gurry , Director-General of WIPO と会見し、MOU ASEAN CHINA の協力関係について話し合った。また、中国特許事務所（SIPO）の調査も視察した他、2010 年 4 月 15-16 日は GUANGZHOU（広州）市を訪問して MIDEA という会社の発展振りを見学した。この会社は、知的財産を利用して商品開発を続けたことにより大きく発展し、中国で広く知られることになった会社である。また、GUANGZHOU（広州）市の知的財産侵害取締り部局との話し合いも行われた。

（2010 年 4 月 21 日、タイ知的財産局ウェブサイト掲載記事）

～タイのパタヤで Creative Thailand-Pattaya International Fashion Week 2010 が開幕～  
アロンコン・ポンラブット商務副大臣が出席し、Creative Thailand-Pattaya International Fashion Week 2010 が開幕した。創造的経済政策に基づいた衣装デザイン・商品促進プロジェクトのもと開催された催しで、パッチマー・タナサンティ知的財産局長とイティポン・クンプルム、パタヤ市長、そして 14 カ国の大使夫人も共に、タイシルクを世界に広げるプロジェクトで活躍する一流のデザイナーがデザインしたタイシルクの衣装を着て、ファッションショーを行った。また、この日 2010 年 4 月 9 日、チョンブリ県パタヤ市において、ファッション業界の歴史的な記録を作った日にもなった。それは、世界で一番長いカタログを作成したということで、Guinness Book of World Record Catwalk に登録されたその長さは 1,5 キロメートル。

（2010 年 4 月 21 日、タイ知的財産局ウェブサイト掲載記事）